

人文科学総合 I (Human Science I)		4 年・後期・2 学修単位 (α)・必修 5 学科共通・担当 木村倫幸・鍵本有理
〔準学士課程 (本科 1 - 5 年) 学習教育目標 (1)	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 A - 1 (70%) , C - 1 (30%)	〔JABEE 基準〕  (a) , (f)
<p>〔講義の目的〕</p> <p>(木村担当分) 現代社会を多面的に考察していく社会科学的な視点を養い、これを的確に表現・伝達できる論理的な能力を育成する。</p> <p>(鍵本担当分) さまざまなメディアが発達した現在こそ、基本である「言葉による表現」ということを見直す必要がある。日本語による表現能力 (書く・話す・聞く) を養成する。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>(木村担当分) 人間存在の捉え方を中心に、思想とは何かを歴史的な視点から考察する。</p> <p>(鍵本担当分) さまざまな種類の文章を実際書きながら、文章についての基本的な知識を身につける。また文書の形式を学びながら、よりわかりやすい表現について考える。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>現代社会のさまざまな問題を取り上げ、適宜レポート、キーワード等の自学自習のための課題を出すので必ず提出のこと。新聞等のメディアにも注意を払うこと。その他、日常の学習や生活に密着した問題、日頃自分たちが行っている会話、目にする文章の表記や形式・表現方法についても、問題意識を持っておくことがのぞましい。</p> <p>なお、クラスによって講義の前半と後半の順序が入れ替わるので注意すること。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>(木村担当分)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 人間存在を理解する基本的視点の歴史的発展を確認する。</li> <li>② 世界と人間との関係の認識について理解を深める。</li> </ol> <p>(鍵本担当分)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「書く」「話す」「聞く」という表現において、基本的な知識と技法を身につける。</li> <li>② 公的な文書の形式を理解し、また、わかりやすい表現について考え、工夫することができる。</li> </ol>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>担当者 2 名の平均で学年成績とする。</p> <p>(木村) 確認テスト (80%)、レポート・課題 (20%)。</p> <p>(鍵本) 定期試験の得点 (60%)、レポート・課題 (40%)。</p>		
<p>〔教材・参考書〕</p> <p>プリント教材多数。参考図書については、講義の中で随時紹介する。</p> <p>鍵本担当分については、国語辞典を一冊準備しておくといよい (講義中に説明する)。また、参考書としては、以下のものを挙げておく。</p> <p>『知的な科学・技術文章の書き方』中島利勝・塚本真也、コロナ社</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>3 年生までの国語、歴史、政治経済等の知識と関連づけて進めていきたい。</p>		

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
第1週	人間とは、世界とは	人間についての理解を始める視点を概説する。	
第2週	古代ギリシャの人間観 (Ⅰ)	古代ギリシャ哲学の発生(神話から哲学へ)を理解する。	
第3週	同上(Ⅱ)	ソフィスト、ソクラテス、プラトンの思想を理解する。	
第4週	同上(Ⅲ)	アリストテレス、ヘレニズム時代の思想を理解する。	
第5週	キリスト教の思想	キリスト教思想の特徴と中世神学の発展を理解する。	
第6週	近代世界と人間観(Ⅰ)	ルネサンスと宗教改革時代の思想を考察する。	
第7週	同上(Ⅱ)	近代科学革命時代の思想を考察する。	
		(↑木村担当分・↓鍵本担当分で前後入れ替え)	
第8週	ガイダンス/ グラフの利用(1)	講義の進め方等のガイダンス、「よい文章」の定義/ グラフの書き方・有効な利用の仕方について考えさせる。	
第9週	文章を書く基礎知識 グラフの利用(2)	原稿用紙の使い方について確認する。誤字に対する注意 力を養う。グラフの効果的な作図について解説する。	
第10週	客観的表現 構想メモの作成	客観的な表現方法を理解させる。「ブレーン・ストー ミング」を利用して構想メモを作成し、作文を書く。	
第11週	表記の問題	「常用漢字」や送り仮名、外来語の表記に関する問題意 識を持たせる。	
第12週	手紙の書き方 説明の仕方(1)	手紙の形式に関する基本的知識を身につけさせる。 物事を順序立てて説明する方法と、注意点を考えさせる。	
第13週	説明の仕方(2)	「取扱説明書」など、さまざまな形式の文書について、わ かりやすい表現を工夫する能力を養う。	
第14週	悪文について/まとめ	「悪文」について考え、問題意識を養う。 まとめとして、再び「よい文章」について考えさせる。	
第15週	特別講義	これまでの講義内容をふまえ、適宜設定する。	
試験			

\* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.  
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)